

井上 孝・岡野行秀・増井健一・八十島義之助 編

都市交通講座

本講座は、現在大きな社会問題となっている都市交通問題を取り上げて、その問題の所在、対応すべき基本的考え方を講座のかたちで解明しようとしている。従来から、都市交通に関する研究、評論、提案の発表は無数にあり、それぞれかなり確実な理論のうえに築かれているが、多くの場合、その基本的考え方が、あるかぎられた断面においてとらえられている。ここでは、4名の編集委員を中心に、都市交通問題を単にかぎられた断面からみることなく、多岐の出発点からみて、そのうえで問題の体系化を行なっている。

なお、本講座は「都市と交通」、「交通と経済」、「交通計画と技術」、「市民生活と交通」、「交通計画の実際」の5巻をもって構成されており、20人をこす執筆者により分担されている。ここでは、今般発刊をみた第1、2巻を取り上げる。

第1巻 八十島義之助 編・都市と交通の目次および執筆者は下記のとおりである。

第1章 交通と都市発展	小川博三
第2章 人口集積と交通	小川博三
第3章 モータリゼーション	堀江興
第4章 都市住民の交通生活	堀江興
第5章 都市における人と物の流動	渡部与四郎
第6章 都市の交通機能	西藤沖
第7章 都市交通の将来	八十島義之助

本巻は交通の都市における位置づけあるいは都市の総合的機能の分析に焦点をしばっており、本講座の序論的役割を果たしている。まず、第1章で、都市の発展と交通技術の関係を歴史的にかつ一般論として取り上げ、第2章でわが国の現下の趨勢である工業化、都市化の実態と都市交通の本質について述べている。第3章では、自動車台数の激増により、いわゆるモータリゼーションが進行しているが、モータリゼーションの実態、効果、問題点を述べ、その評価を行なっており、第4章では都市住民の生活における交通パターンを概論的に取り上げている。第5章では、都市交通の基本的方向、人と物の流動と交通施設計画について、第6章では、都市発展と交通機能の変化、都市の交通需要について述べている。最後に、第7章では、都市機能からみて都市交通が将来どうあるべきかを論じている。

次に、第2巻 増井健一 編・交通と経済の目次および執筆者はつぎのとおりである。

第1章 企業と交通	広岡治哉
第2章 都市家計と交通	佐竹義昌
第3章 都市の職場・住宅と交通	角本良平
第4章 都市大量交通業の経営(1)	大島国雄
第5章 都市大量交通業の経営(2)	細田繁雄
第6章 都市道路交通業の経営	佐竹義昌
第7章 都市道路政策	藤井弥太郎
第8章 都市交通政策	増井健一

本巻は、経済および経営の理論をふまえて、都市交通の現状分析、そこに作用している傾向の析出、合理的政策の提示を行なっている。まず、第1章では、大都市における産業構造と物資の流動、産業立地と輸送の関係について、第2章では、わが国の消費構造と交通量およびモータリゼーションの家計への影響について検討している。続いて、第3章では、職場や住宅の立地と交通需要の関係がかえりみられる。第4章、第5章では、都市大量交通業の経営について、独立採算制および運賃と資金調達に重点を置いて論じており、第6章では特に、バス、ハイヤー・タクシーなどの都市道路交通業の経営について論じている。最後に、これら交通需要関係を秩序づけ、方向づける都市交通政策について論じており、第7章では、都市道路について、第8章では、都市交通一般について、それぞれを見通している。なお、第3～5巻については、45年度内に刊行される予定であるとされている。 [は]

第1巻：鹿島出版会刊、A5判・277ページ、定価1500円
第2巻：鹿島出版会刊、A5判・309ページ、定価1500円

ご案内とお願い

本欄に収録されております書評または紹介記事は、わが国で発刊された工学書を中心に書評小委員会がとりまとめて編集している欄であります。この編集作業のため、本欄を担当しております書評小委員会は、各方面の協力を得て、新刊書をもれなく集めるよう配慮と努力をしておりますが、未取図書が皆無とは申せない現状であります。つきましては、会員各位のご執筆・編集になりました図書が発刊になりました節は、ぜひとも書評小委員会あて2冊（ただし、うち1冊は土木図書館に備付け）ご恵送承りたく、お願い申し上げます。なお、勝手ながらご身边でこの種出版物が出版されました節は、このことをご伝言いただきたく願ひ上げます。

土木学会誌編集委員会書評小委員会